

## ① 岩沼市教育委員会との地域連携・被災地研修講演会（8月20日・火）

東日本大震災から2年6ヶ月を迎えた今、震災で甚大な被害を受けた岩沼市玉浦地区にある玉浦小学校・玉浦中学校の震災復興に向けた取り組みを中心に、岩沼市教育委員会学校教育課山川課長にお話しいただいた。岩沼地域の学習支援ボランティア活動を実践している本学学生や、北海道教育大学生は、課題を乗り越え未来に向かって進んでいる岩沼市の現状を熱心に聴講した。この地域連携「被災地研修講演会」は仙南事務所を活用し、本センターとTV会議システムにて中継した。



## ② 第7回復興カフェ開催（9月19日・木）

ポートランド州立大学・スティーブン・リード・ジョンソン博士による「持続し復元力ある地域をつくるコミュニティの物語」と題した、第7回復興カフェを開催した。今回は附属図書館と共催という初の試みであった。東日本大震災後のコミュニティの復旧・復興を考えると「ポートランドストーリー」という、行政への強力な市民参加、街づくりの全米モデルの手法があることなどをお話しいただいた。



## ③ 二心の復興＝沖縄県立芸術大学との連携～大学間連携共同教育推進事業から～

9月25日（水）から29日（日）において、沖縄県立芸術大学の被災地交流として「彫刻展」や「琉球芸能公演」、「空手スポーツ教室」が開催された。その交流の一環として参加学生の被災地研修、津波被災した荒浜地区の子どもを招いた「シーサーづくり」のワークショップが行われた。



二やがて撤去される  
南三陸防災庁舎の前で＝



＝もう津波が来ないようにと  
魔除けのシーサーづくり＝

#### ④ 学生主催の被災地視察研修～気仙沼地域～（10月14日・月祝）

第12回目の被災地視察研修は、気仙沼出身の本学学生企画・運営によるもので、ポスター、パンフレット、旗、横断幕など全て手作りだった。新校舎建築後一度も入ることなく震災にあった気仙沼向洋高校は、未だに瓦礫や車が残ったままだった。（参加者33名）



手作りポスターなどで参加者募集



長時間のバス乗車を充実させるために  
調査報告や被災地クイズで



校舎内外に自動車等の瓦礫が残る  
「気仙沼向洋高校」の被災状況に  
ついて



本学卒業生の山内先輩から震災展示の話  
～リアス・アーク美術館学芸係長～



解体のため、船底だけが残る共徳丸につて



気仙沼出身の学生からの説明  
～ホテルの屋上～



震災当時の市民動きの話を聞く  
～気仙沼事務所内で職員から～

### ⑤ 大学祭企画 ボランティア報告会・10/26(土)&フォーラム・10/27(日)

ボランティア報告会は、【宮教が考える震災復興～学生ボランティアの復興支援～】とし、学内で特色ある取組をしている気仙沼ボランティア、くりはら塾、若松会、異文化交流部、梨の花プロジェクト、女川町ボランティアなど9団体が活動報告を行った。フォーラムでは、学校現場の先生4名をお招きし、【震災時の学校現場と新しい防災教育】についてご講演いただいた。講演の中で、災害時の情報収集の大切さや教員の役割、緊急時の備蓄やこころのケア、主体的な防災訓練や体験を伴う防災活動等の実践例と、学生ボランティア活動の重要性が強調された。



### ⑥ 第8回復興カフェ in Miyakyo (10月31日・木)

「台風26号による伊豆大島における災害と支援」と題し、本センター研究開発部門の教員が実施した、台風26号による、伊豆大島の被害調査について、速報し、今後の支援や復興の在り方について議論した。



### ⑦ 教育復興支援センター 研究プロジェクト事業

教育復興支援センターでは、復興支援、防災教育に係る下記のプロジェクトに取り組んでいます。

	件 名	担 当
1	防災教育創造プロジェクト	主担当：野澤令照
2	仙台P4C推進プロジェクト	主担当：野澤令照
3	キャリア教育研究開発プロジェクト	主担当：野澤令照
4	防災教育における国際協力・協調・理解に関する教育資源活用の実践的取り組み	主担当：村松隆
5	防災マップ・教材プロジェクト (防災マップ・防災復興教育教材の作成プロジェクト)	主担当：小金澤孝昭
6	東日本大震災以降の児の発育状態に関する研究	主担当：黒川修行
7	教員養成教育における環境防災教育	主担当：斉藤千映美
8	DSAT (災害時派遣学校支援チーム) プロジェクト	主担当：田端健人